明治丸概要と主な事跡

平成30年3月17日

特定非営利活動法人　日本海洋塾

日本海洋塾ホームページ：http://kaiyou-juku.org/

明治丸概要

英国グラスゴーのR･ネイピア造船所に発注、1874年11月に竣工した船で、鉄製部材によって建造されており、
当時の造船技術を残すとともに、船内は、発展する北大西洋旅客航路の旅客船の初期の形式を残しており、
当時の船の貴重な遺訓として、1978(昭和53)年5月31日、重要文化財に指定された。

竣工当時の船体要目

船名：MEIJI MARU 明治丸　船舶所有者：燈台局　定繋港：武蔵國横濱
船舶番号：675　信号符字：HBKF
船級：Lloyd s’ 100A1（船の等級を表すもの、日本船で最初にこの等級を取得した）
船種 ：補助帆付双螺旋汽船（旅客船仕様）　帆装：二檣トップスル･スクーナー
総トン数：1027.57トン（ロイズ検査証書では1010.08総トン）
全長：242ft（73.76m）　甲板長：223ft(68m)　幅：29ft2.5inch(8.9m)
深さ：21ft5inch(6.5m)
主汽関：倒立型2連成往復動蒸気汽関2基　ボイラー：前後端焚円缶式
石炭庫容量：速力10.5k’ t（250HP）で約12日分の容量

明治丸の見どころ

１、一等客室区画の艤装
船内は、当時の北大西洋横断航路の客船と同じ様に、主甲板後部両舷を一等客室区画とし、中央に一等サロンを設けてある。 サロン中央のテーブル、船尾の円形ソファー、前部の鏡付飾り棚、サロンと客室の仕切り壁の装飾、主階段の造りなどに当時の装飾意識が覗われます。

当時、船内の換気は自然通風であったため、日光が当たる側はかなり蒸し暑く、このため部屋の仕切壁は鎧戸形式になっています。 また、角窓には、めくら扉･ガラス戸･鎧戸が装備され、天候と船内環境に対応できるように工夫されています。御座所は居室、寝室、浴室、厠が装備されています。
夜間の照明はランプかろうそくが使われており、一等区画の照明はサロンの柱の頂部に埋め込み式になっております。

２、甲板艤装
上甲板には前方より錨鎖、揚錨機、便所、操舵室、船将室、スカイライト、操舵機などが建造当時の姿を保っています。 当時の客船は、上甲板より下の甲板区画に光を入れるための明り取りと通気のためのスカイライトが各所に設置されていいます。 上甲板に装備されている機械類（錨鎖、揚錨機、操舵機など）は建造当時のもので、当時の機械製作技術レベルを示しています。

上甲板船尾に装備の操舵機
　船橋の舵輪からのロープなどで
　三日月型のクオードラントを左右に引いて舵軸を回したと推定
箱の中には舵輪を回して舵軸を回すギヤーがある。

船首に装備の揚錨機
　ボイラーからの蒸気力を回転力に変えて錨鎖を巻き上げ、巻き下しする。 蒸気力が得られない場合に備え、手動で動かすためのギヤーが装備されている。

３、船体の構造と工作法

本船は、船体部材に鉄材が使われるようになった時代に造られており、分析の結果、初期の製鉄技術のため、炭素が少なく燐を多く含む極軟鋼に近い性状と判明しています。

構造は、従来からの木材製の船体と同じように横式構造で組み立てられており、当時の製鉄技術では棒材、板材、山形材程度の部材しか造ることが出来ず、これらの部材をリベットで接合して船体を組上げています。 この構造様式は、第２次大戦後に溶接技術が確立するまで使われたものです。

主甲板以下の船体は8枚の横隔壁で仕切られており、外板が破損して浸水があっても、十分な浮力を維持できる構造になっています。

船艙を区切る水密隔壁には通行のための水密隔壁が装備されている。

機関室の船側・主甲板の構造
（鉄板と山形材を鋲で止めてある）

４、アカンサス文様の採用
本船が建造された当時、発展する米国と欧州各国との間の北大西洋航路には、船会社は集客のため、豪華さと速力を競争で新造船を投入していました。本船もこれらに準じた船内になっています。

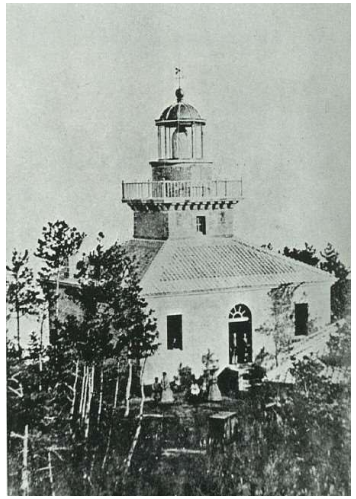
　アカンサス（和名：はあざみ（葉薊））は、地中海沿岸が原産地の耐寒性大型多年草で、冬も青々と茂り縁起が良く、葉の緑色が美しく格調ある文様として装飾に使われており、古代ギリシャ・ローマの建築物に多く使われています。（コリント式建築物の柱の頂部の飾りはほとんどこれを）
日本では、明治時代の西洋建築、現行一万円札、金沢大学の校章、東京芸術大学の校章、などにも採用されているほどです。本船の、船首、船尾、一等客室区画には、アカンサス文様の装飾が施さ
れており、実物が百周年記念資料館の南西側に植えてあります。

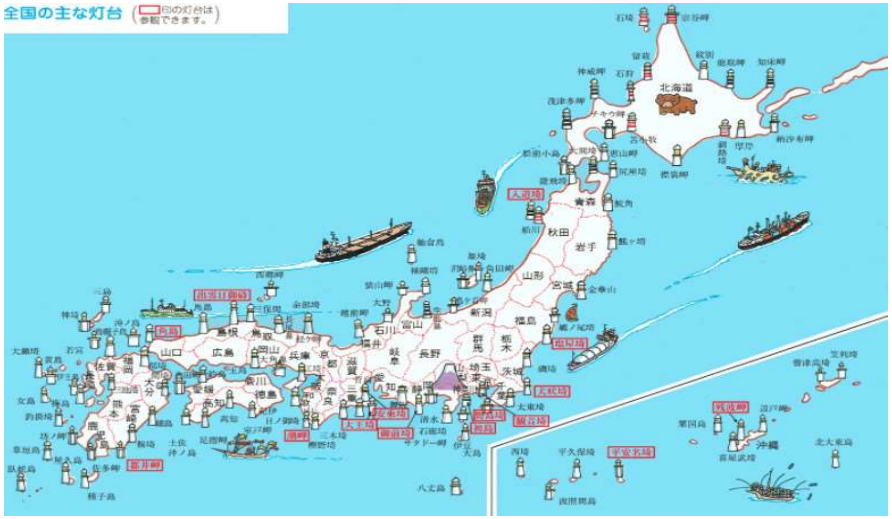
明治丸を作ろうとした訳は？？

1.開国以来、西洋諸国から西洋式灯台の設置を求められる

幕末、江戸幕府は米国・英国・仏蘭西・阿蘭陀の4カ国と**江戸条約**を結び、西洋式灯台を建てる約束をした。明治政府は其れを受けて、仏蘭西と英国に、灯台のレンズや機械の買い入れと指導を依頼。そうして、明治2年1月1日に神奈川県三浦半島の観音埼に、日本ではじめて西洋式の灯台が誕生しました。作ったのは、F・L・ヴェルニーという仏蘭西人です。彼は東京湾の周りに、合計4ヶ所の灯台を建設し帰国しました。その後を受ける形で灯台建設を請け負ったのが英国です。スコットランド出身のリチャード・ヘンリー・ブラントンを長とする3人の技師が明治元年から9年間滞在し、**26ヶ所の灯台**と、2隻の灯船（灯台の役目をする船）を建設しました。

新しい灯台巡回船が必要





【観音崎灯台】
初点灯 明治 2年 1月 1日（日本最初の洋式灯台）
光 度 77,000カンデラ（四等フレネルレンズ）
光達距離 20．0海里（約37km）

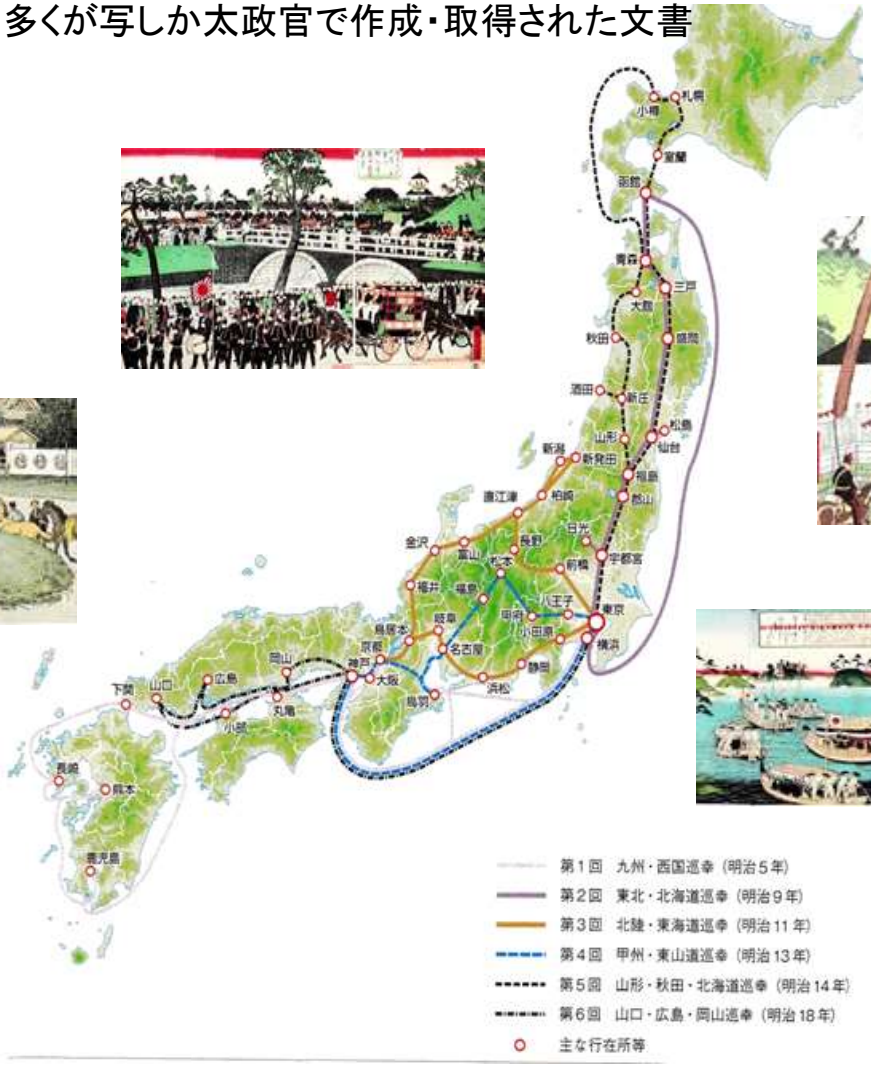
平成23年現在で3251灯台

その他の目的？？

2. ロイヤルシップの必要性

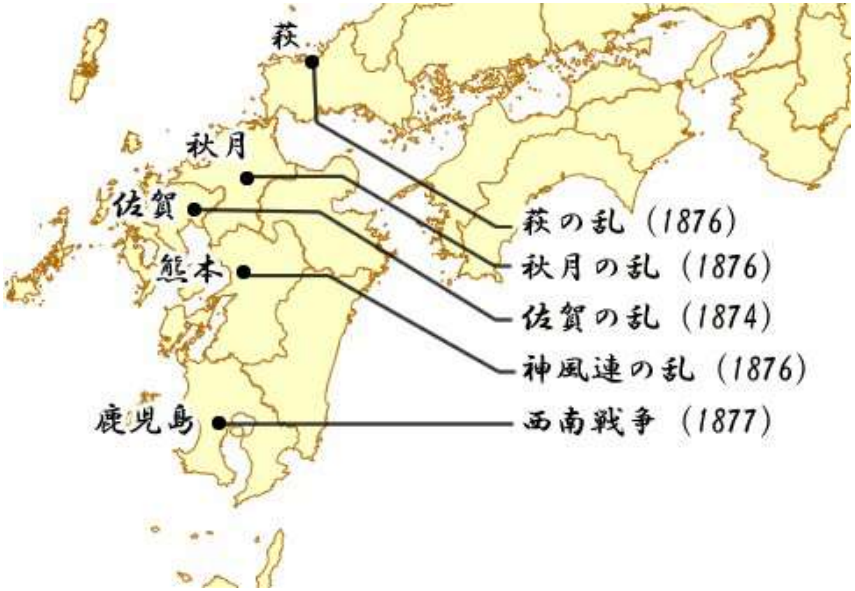
御生涯の大半を御所で過ごされた江戸時代の天皇とは対照的に、明治天皇は各地へ行幸されました。六大巡幸（ろくだいじゆんこう）とは、**明治5年（1872）の九州・西国**、同9年の東北・北海道、同11年の北陸・東海道、同13年の甲州・東山道、同14年の山形・秋田・北海道、同18年の山口・広島・岡山、合計6回の巡幸のことです。
このうち、明治14年までの5回は太政官が主管して行われ、明治18年の1回のみ宮内省が担当しました。そのため、六大巡幸に係る公文書は、初回から5回までは主として国立公文書館に、最後の1回は宮内公文書館に原書が伝わっています。宮内公文書館が所蔵する5回目までの文書は、多くが写しか太政官で作成・取得された文書を引き継いだものです。

戦艦（龍驤）では如何にも乗り心地が悪い。
天子様に相応しい座乗艦が要るでごわす！！



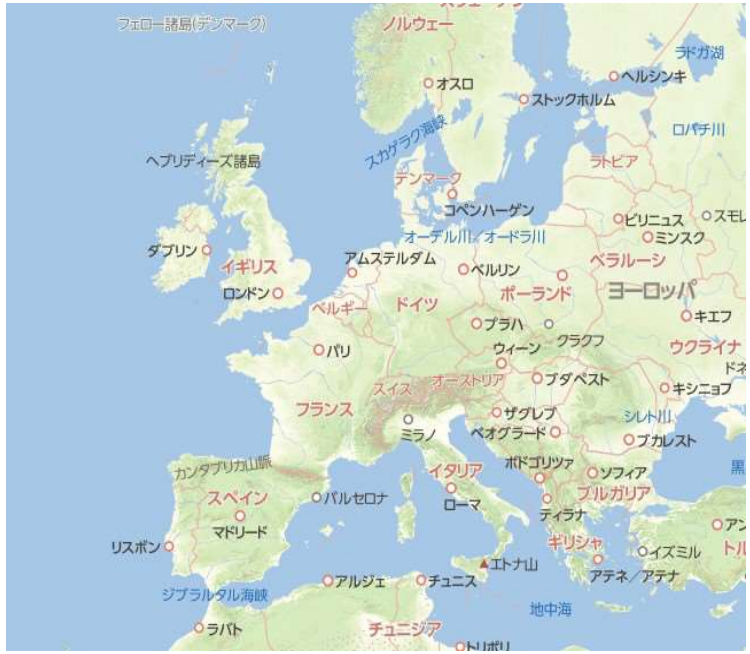
３．緊急避難船？？　当時の英国軍艦の最速船と同等の速力

江戸時代後期に開国し、王政復古により成立した明治政府は四民平等政策のもと、大名、武士階級を廃止して華族、士族を創設する。秩禄処分により俸禄（家禄）制度は撤廃され、廃刀令の施行など身分的特権も廃された。その様な中で明治六年政変以前にも全国の士族の中に新政府に反発する空気が充満しており、西郷隆盛、江藤新平、板垣退助らが下野するとその不平士族層は多大な影響を受け、遂に九州を中心に蹶起行動を起こした。



何故明治丸を英国のネピア造船所に？

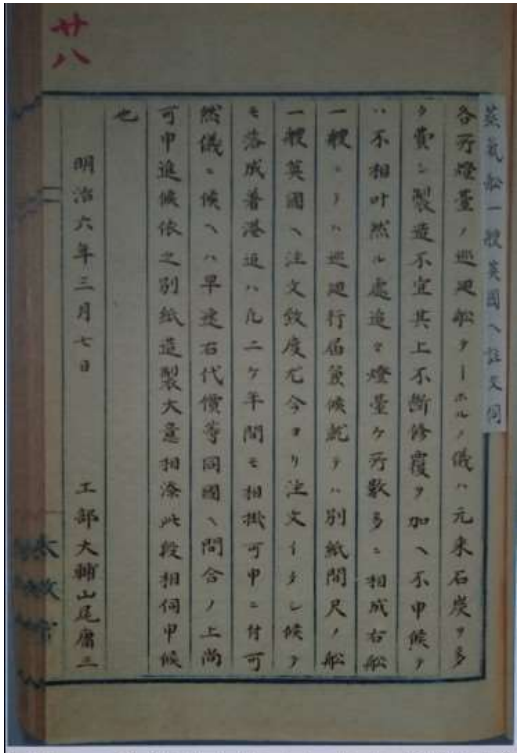
グラスゴーは何処？？


フェロー諸島(デンマーク)
ノルウェー
ラドガ湖
オスロ
ヘルシンキ
ストックホルム
ロバチ川
ヘブリディーズ諸島
スカゲラク海峡
ラトビア
デンマーク
コペンハーゲン
ビリニュス
ミンスク
オーデル川
オーデル川
ダブリン
アムステルダム
ベルリン
ベラルーシ
イギリス
ロンドン
ポーランド
ヨーロッパ
ベルギー
ドイツ
キエフ
プラハ
クラクフ
パリ
ウィーン
ウクライナ
スイス
オーストリア
ブダペスト
キシニョフ
フランス
ザグレブ
シレト川
ミラノ
ベオグラード
ブカレスト
カンタブリカ山脈
イタリア
ポドゴリツァ
ソフィア
スペイン
バルセロナ
ローマ
ブルガリア
ティラナ
マドリード
リスボン
ギリシャ
イズミル
エトナ山
アテネ／アテナ
ジブラルタル海峡
アルジェ
チュニス
地中海
ラバト
チュニジア

アバディーン
ピトロクリ
エディンバラ
グラスゴー
グレンルダー
Irish Sea
ケンブリッジ
ロンドン

インヴァネス
Inverness
アバディーン
Aberdeen
スコットランド
ダンディー
Dundee
エディンバラ
Edinburgh
グラスゴー
Glasgow
イギリス
北アイルランド

1. 長州ファイブ＆山尾庸三



明治六年三月七日

工部大輔山尾庸三

最初の建造伺（国立公文書館蔵）

2. 晩年の長州ファイブ

井上馨

外務大臣

井上勝

鉄道の父

山尾庸三

工学の父

伊藤博文

総理大臣

遠藤謹助

造幣の父

山尾庸三の生涯

和暦	西暦	歳	出来事
天保8年	1837	1	10月8日周防国吉敷郡二島村長浜（山口市）に生まれる
天保14年	1843	7	この頃、寺子屋に通う
弘化3年	1846	10	この頃役所で手伝いをする
安政3年	1856	20	6月江戸に行き練兵館道場に入門。桂小五郎と出会う
文久元年	1861	25	4月函館に行き、幕府船亀田丸に乗組みロシア領沿海州へ航海する
文久2年	1862	26	8月長州藩船壬戌丸に井上馨、遠藤謹助らと乗組む 12月品川御殿山に建設中の英国公使館焼き討ちに加わる
文久3年	1863	27	5月12日英国へ密留学のため横浜を発つ 9月20頃ロンドンに着く。ウィリアムソン教授に就いてユニバーシティ・カレッジで学ぶ
慶応2年	1866	30	秋　グラスゴーのネピア造船所で工業技術を学ぶ
明治元年	1868	32	11月19日井上勝と共に英国より帰国
明治2年	1869	33	2月長州藩海軍の教授方助役として、藩士に技術を教える
明治3年	1870	34	4月新政府の民部省に入り、横須賀製鉄所の事務職に就く この頃、工部省の設置を主張する 10月工部省設置と共に工部省に移り、鉄道の建設に関わる
明治4年	1871	35	4月工学校を創る必要性を説く **8月工学寮の責任者となる** **9月盲唖学校を創る意見書を提出する** 12月工部少輔となり、鉱山の開発を提案する
明治5年	1872	36	9月鉄道開業式で、明治天皇、鉄道頭の井上勝と共に列車にのる 10月工部大輔となる。岩倉使節団一行に同行した伊藤博文に、外国人教師を招くよう依頼
明治6年	1873	37	**ネピア造船所に明治丸を発注する**
明治9年	1876	40	11月工部省に工部美術学校を設置する
明治10年	1877	41	6月恩人木戸孝允の御霊を、博文と共に霊山墓地に葬る
明治11年	1878	42	4月工部大学校の開校式に参加する
明治13年	1880	44	1月盲唖教育施設の楽善会訓盲院を開校させる 2月工部卿（大臣）になる
明治14年	1881	45	10月憲法を審議し起草する参事院の議官になる
明治15年	1882	46	7月工業発展に貢献する目的で設置された工学会の会長に選ばれる
明治18年	1885	49	12月第一次伊藤内閣で法制局長官となる
明治31年	1898	62	2月全ての職務から退く
大正4年	1915	79	**11月日本聾唖協会が設立され、総裁となる**
大正6年	1917	81	12月21日東京で病のため亡くなる

3.グラスゴーから横浜へ

明治7(1874)年11月24日に竣工した「MEIJI MARU」をグラスゴーから横濱まで、凡そ11,400海里を回航してきた乗組員は、英国人船長Robert･H･Peters、機関長John Campbell以下航海士3名、機関士3名、水夫･大工･船灯掛･火夫･賄方･料理人等45名　総員53名で、明治8年1月早々にグラスゴーを出帆し、2月20日無時横濱に到着しました。 日本到着後も船長以下の士官は、引き続き乗組員として雇われ、料理人以外の部員は日本人に変わりました。
その後、日本人の航海士･機関士が育つにつれ、外国人士官も日本人に交代し、全員日本人になったのは、18年後の明26(1893)年でした。

建造場所の英国グラスゴーから横濱までの航路と寄港地（補給地）を推定したもの。
明治8(1875)年1月2日にグラスゴーを出帆したと仮定して、2月20日に横濱に到着しているので、全行程50日かかった。

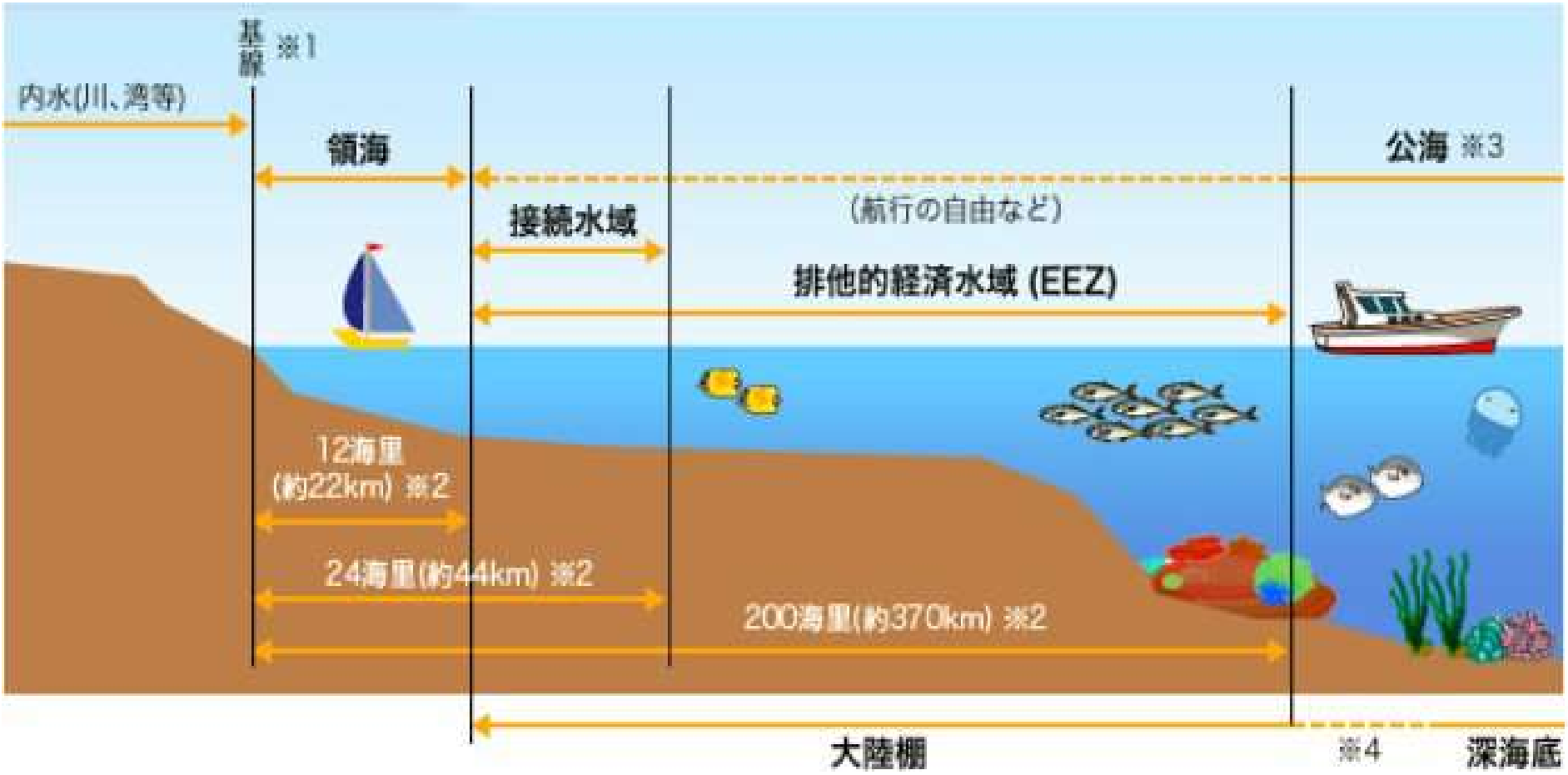
小笠原諸島の日本国への領有権確定

●小笠原諸島の名前の由来

●何故すんなりと日本の領有権が認められたか

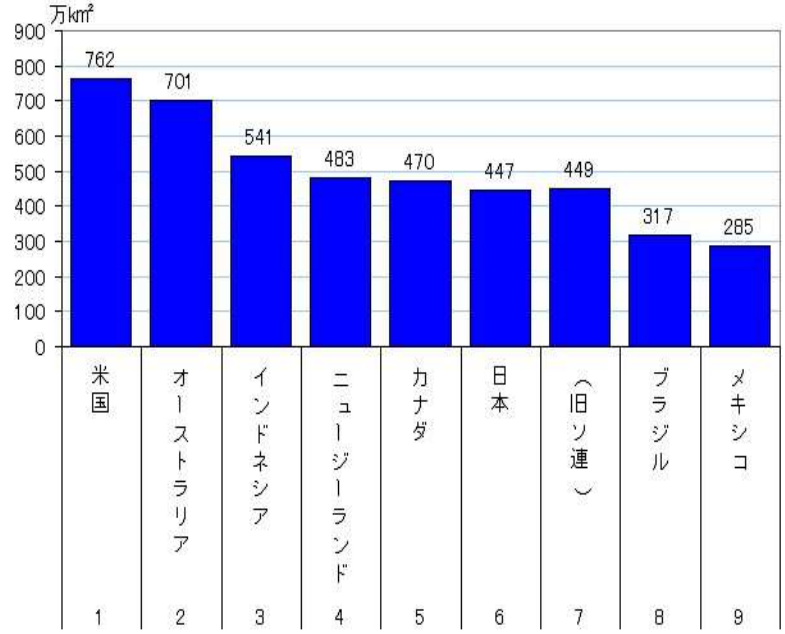
領海、接続水域、排他的経済水域？？

海里、マイル、ノット？？



（資料）毎日新聞2014年7月25日（世界の排他的経済水域マップ）、海上保安庁（日本）

世界の排他的経済水域面積ランキング



（注）領海と排他的経済水域を合わせた管轄海域の面積を示した。日本以外は1972年のアメリカ国務省資料「Limits in the Seas-Theoretical Areal Allocations of Seabed to Coastal States」（全訳「海洋産業研究資料」，通巻第59号，1975）に基づくデータ。旧ソ連については，その後独立したバルト海・黒海・カスピ海に面している共和国分が含まれているほか，米国務省データにはロシアの実効支配を理由に日本領土である北方四島の周辺海域分も含まれている。したがって，現ロシアの管轄海域面積は日本よりも小さくなると判断。なお，日本の管轄海域面積は「長井俊夫(1996)，新しい領海関係法と水路部のかかわり（水路，99，2-14）」による。

1. 小笠原島の名前の由来

西暦	出来事
1593	小笠原貞頼が八丈島の東南を探検し「小笠原島」を発見（伝説）
1639	鎖国の完成。オランダ人タスマンが父島、母島を発見。地図に記す。
1670	唐船造御船の完成。阿波の廻船（蜜柑船）が母島に漂着、新たに船を組み立てて伊豆下田に生還する。
1675	嶋谷市左衛門、中尾庄左衛門、嶋谷太郎左衛門、6月23日に父島発見
1722	伊豆代官が無人島調査を申し出るも中止。
1785	林子平の『三国通覧図説』なる。1786年江戸にて刊行。
1805	東洋学者クルブロートがイルクーツクで日本語教師新蔵と出会い『三国通覧図説』を解読する
1810	天文方高橋景保が『新訂万国全図』に「無人島」を記入する。
1817	フランス人東洋学者レミューザが学会で『三国通覧』に中から「無人島」を紹介。
1824	コフィン船長（アメリカ人）が母島に上陸。
1825	イギリスの捕鯨船サプライ号が父島に上陸。コフィン船長父島に来る。
1826	東洋学者クラブロートが「ムニンシマ」を紹介
1827	イギリス軍艦ブロッサム号が父島に来航。艦長ビーチーは新島と思い違いをして勝手に命名する。
1828	ロシア人艦長リュトケが父島に上陸。
1830	ハワイから白人系移住者25名が現地人と共に無人島に入植する。
1831	1827年に小笠原に寄港したしたビーチーの航海記が発刊され小笠原諸島が欧米の人々に広く知られる。
1832	『三国通覧図説』がクラブロートにより完訳される。シーボルトの『日本』の刊行がはじまる。
1835	父島のマテオとマザロが一時ハワイに戻り、イギリス領事に小笠原移住民の保護を請願する。
1836	アメリカ軍艦ビーコック号が父島調査の為に上陸。
1837	モリソン号の来日。イギリス軍艦ローレイ号が父島調査に来る。
1838	伊豆代官、伊豆七島と無人島を調査しようとしたが果たさず。
1840	陸前高田の「中吉丸」が父島に漂着、二カ月かけて船を修復した後帰国を果たす。
1847	島長マザロが父島で死去。
1853	ペリーが父島に上陸、貯炭所を確保する。いったん琉球に戻り浦賀に来航。ペリーが久里浜に上陸し国書を渡す。
1854	アメリカ東インド艦隊のマケドニアン号が小笠原諸島に寄る。
1862	外国奉行水野忠徳を乗せた咸臨丸が父島に到着。島が日本に属することを外国人居住者に認めさせる。食料が尽き咸臨丸が引き揚げる。朝陽丸が開拓民を乗せて父島に向かう。生麦事件。
1863	安藤信睦の辞任を境に小笠原開拓事業を中止。
1875	岩倉具視が明治天皇に小笠原諸島開拓について上奏し、三条実美が裁可する。明治丸が田辺太一、小花作助らを乗せて父島に向かう。イギリス軍艦カリュー号が英国領事を乗せて父島を目指す。田辺太一とイギリス領事が会見し日本の小笠原島統治を認めさせる。
1876	小笠原諸島開拓に着手するにつき、駐日各国公使に通達し、小笠原諸島が国際的に日本領土としての主権が認められる。
1880	小笠原諸島が東京都管内に入り、都の出張所が置かれる。

1593年 『**巽無人島記**』＜＝偽書？？
（小笠原貞頼の探検の様子が記述）

*偽書と判断される根拠
- ●幕府がこの島を無人島と命名したのは1675年
- ●1593年時にこの島が家康によって『小笠原島と命名されたなら、1675年の嶋谷市左衛門覚書にその名が出て来る筈だが、一切出て来ない

1639年 オランダ人タスマンが父島、母島を発見
（島の地図が記録されている）

1670年 『阿州船無人島漂流記』
（島の様子が詳細に記録されている）

1675年 『嶋谷市左衛門覚書』
『小笠原島紀事』
（島の様子が海図と共に詳細に記録されている）

＊幕府は『巽無人島記』が偽書であり、小笠原貞頼の探検が虚偽らしい事を承知していたが、**外国に対して領土権を主張するのに便利なので、その風説を利用**

2.『巽無人島記』(偽書？)(小笠原貞頼の探検の様子が記述)が書かれた背景

嶋谷市左衛門が無人島探検から帰って来た1675年に小笠原長直と称する武士が、次回無人島を探検する時、是非自分達を行かせてくれと言う訴状を幕府に差し出した。
『その島はもともと父小笠原貞頼が発見し、島の様子を絵図と一緒に報告し、徳川家康から証文を戴いたものである。だから今度、同島に船を派遣する際には、是非自分を御取り立て願いたい。そうすれば島の様子や、父からの伝承を言上できるし、私の家来たちにも役にたつことだろう』と言うものだった。

幕府はこの時の**小笠原長直の訴えを無視**した。

西暦	出来事
1675	幕府に小笠原長直より最初の『辰巳無人島渡海願』が出される
1702	小笠原長啓が二度目の『辰巳無人島渡海願』を出す
1727	小笠原貞任が三度目の『辰巳無人島渡海願』を出す。
1734	小笠原長晃、鳥羽より無人島を『目指すが行方不明。
1735	小笠原貞任が身分詐称により重追放。

その後、小笠原本家の血を引く小笠原忠晴に系譜を調査させたところ、**小笠原貞頼なる人物は本家の系譜には見当たらない事が判明**。『巽無人島記』が小笠原貞任によって書かれた偽文書の疑いがある。

『小笠原島の名前』は＜＝＝＝＝**『嘘から出たまこと』**になる？？？

３．小笠原が無人島としてヨーロッパにも広く知られた背景

林子平：１７８５年に『**三国通覧図説**』を刊行

もともと朝鮮、琉球、蝦夷について、その地理、風土、風俗、産物について記したものだが、そこに「無人島」が追加された。

『この島は本名は小笠原島であるが、誰もが無人島と称するのでそれに従ってここでは無人島としておく。小笠原島と呼ばれる訳はかつて小笠原某がこの島を発見し地図を作り持ち帰ったからである』と記載されている。

林子平の『三国通覧図説』はレミューザやクラプロートと言ったヨーロッパの学者を通して西洋に紹介され、ヨーロッパ人にも無人島（小笠原島）の存在が知れ渡った

＊英語圏では現在でも『オガサワラ・アイランド』ではなく『ボニン・アイランド』と表記されている

西暦	出来事
1592	文禄の役(朝鮮出兵)の際、小笠原貞頼が家康の配下で名護屋に出陣
1593	小笠原貞頼が八丈島の東南を探検し「小笠原島」を発見(伝説)
1639	鎖国の完成。オランダ人タスマンが父島、母島を発見。地図に記す。
1670	唐船造御船の完成。阿波の廻船(蜜柑船)が母島に漂着、新たに船を組み立てて伊豆下田に生還する。
1674	「末次船」完成。第一次無人島探検失敗
1675	嶋谷市左衛門、中尾庄左衛門、嶋谷太郎左衛門、6月23日に父島発見
1675	幕府に小笠原長直より最初の『辰巳無人島渡海願』が出される
1702	小笠原長啓が二度目の『辰巳無人島渡海願』を出す
1722	伊豆代官が無人島調査を申し出るも中止。
1727	小笠原貞任が三度目の『辰巳無人島渡海願』を出す。
1734	小笠原長晃、鳥羽より無人島を『目指すが行方不明。
1735	小笠原貞任が身分詐称により重追放。
1785	林子平の『三国通覧図説』なる。1786年江戸にて刊行。
1805	東洋学者クルブロートがイルクーツクで日本語教師新蔵と出会い『三国通覧図説』を解読する
1810	天文方高橋景保が『新訂万国全図』に「無人島」を記入する。
1817	フランス人東洋学者レミューザが学会で『三国通覧』に中から「無人島」を紹介。
1824	コフィン船長(アメリカ人)が母島に上陸。イギリスの捕鯨船の乗組員が常陸大津浜に上陸する。

西暦	出来事
1825	イギリスの捕鯨船サプライ号が父島に上陸。コフィン船長父島に来る。幕府、異国船打払令を発布
1826	東洋学者クラブロートが「ムニンシマ」を紹介
1827	イギリス軍艦ブロッサム号が父島に来航。艦長ビーチーは新島と思い違いをして勝手に命名する。
1828	ロシア人艦長リュトケが父島に上陸。シーボルト事件
1830	ハワイから白人系移住者25名が現地人と共に無人島に入植する。
1831	1827年に小笠原に寄港したしたビーチーの航海記が発刊され小笠原諸島が欧米の人々に広く知られる。
1832	『三国通覧図説』がクラブロートにより完訳される。シーボルトの『日本』の刊行がはじまる。
1835	父島のマテオとマザロが一時ハワイに戻り、イギリス領事に小笠原移住民の保護を請願する。
1836	アメリカ軍艦ビーコック号が父島調査の為に上陸。
1837	モリソン号の来日。イギリス軍艦ローレイ号が父島調査に来る。
1838	伊豆代官、伊豆七島と無人島を調査しようとしたが果たさず。
1840	陸前高田の「中吉丸」が父島に漂着、二カ月かけて船を修復した後帰国を果たす。アヘン戦争勃発。
1843	ミリチャンプが父島を去り、グアム島へ移住。阿部正弘が老中首座になる。高島秋帆が獄に繋がれる。イギリスが上海に永久借地を得る。
1845	アメリカの捕鯨船マンハッタン号が父島から北上中に日本人遭難者を救助、その後浦賀に入港。
1847	島長マザロが父島で死去。
1850	父島住人がひどい略奪に合う。

西暦	出来事
1851	イギリス軍艦エンタープライズ号が父島に入港。武器を島民に渡す。
1853	ペリーが父島に上陸、貯炭所を確保する。いったん琉球に戻り浦賀に来航。ペリーが久里浜に上陸し国書を渡す。ロシア提督プチャーチンが長崎来航。高島秋帆が釈放され「嘉永上書」を上申。
1854	ペリー二度目の来航、神奈川条約締結。オランダ海軍中佐ファビウスが蒸気船スンビン号で来崎、最初の伝習を行う。アメリカ東インド艦隊のマケドニアン号が小笠原諸島に寄る。
1862	外国奉行水野忠徳を乗せた咸臨丸が父島に到着。島が日本に属することを外国人居住者に認めさせる。坂下門外の変により安藤信睦が刺される。食料が尽き咸臨丸が引き揚げる。朝陽丸が開拓民を乗せて父島に向かう。生麦事件。
1863	安藤信睦の辞任を境に小笠原開拓事業を中止。中浜万次郎が小笠原諸島近海で最初の洋式捕鯨を行う。長州藩が下関を通過中の外国船を砲撃。薩英戦争。8月18日の政変、薩摩と会津が長州勢を追放。
1875	岩倉具視が明治天皇に小笠原諸島開拓について上奏し、三条実美が裁可する。明治丸が田辺太一、小花作助らを乗せて父島に向かう。イギリス軍艦カリュー号が英国領事を乗せて父島を目指す。田辺太一とイギリス領事が会見し日本の小笠原島統治を認めさせる。
1876	小笠原諸島開拓に着手するにつき、駐日各国公使に通達し、小笠原諸島が国際的に日本領土としての主権が認められる。
1880	小笠原諸島が東京都管内に入り、都の出張所が置かれる。

4. イギリス香港総監とペリーとの間で行われた話合い

島に最初に入った白人は5名。イタリア生まれのマザロ、アメリカ生まれのセボリー、同じくチャピン、イギリス生まれのミリチャンプ、デンマーク生まれのジョンソン。もし島が国民の数で決まると言うなら、アメリカ人が二名でその他の三名はそれぞれ生国が異なる。しかもマザロ、チャピン、ジョンソンは既に亡くなっている。イギリス人のミリチャンプはグアム島へと去っている。最初の植民から生き残っているのはアメリカ人のセボリーだけだ。
私が父島を訪れた時にはおよそ八名の白人がいたが、彼等は私が島を去ったのち会合を開いた上で、セボリーを首長とした自治政府をつくりあげている。

自分としては、父島があらゆる国に開かれていれば良いので、米英いずれに所属するかは重要な問題ではない。

小笠原は元来イギリスがが領有している島であり、島にはイギリス人マザロが知事として島を統治していた事実がある。

最後に、**島はすでに17世紀後半に日本人である嶋谷市左衛門によって探検された史実があり、もし本来の所有権に触れるならならば、イギリスでもなければ、アメリカでもない、日本に所有権があることをイギリス総監に示した**

５．幕府の小笠原領有に対する具体的行動

１８１６年幕府は外国奉行水野忠徳に小笠原島開拓御用掛を命じた

●１８５６年ペリー提督日本遠征記が刊行
●英国公使オールコックから、小笠原諸島が日本の領土であるかを問われた

幕府は事前に英国と米国の公使に渡航の通知をなす

米国公使からは『アメリカには小笠原島の領有や殖民の意志はない。しかし現在住んでいる外国人の財産は認めて欲しい』との回答あり。

英国公使からは『小笠原が日本人により発見されたことには異議は挟まない。しかし長年に渡って島を放棄していたので、それは国際法上無効になる。でも日本が小笠原島への外国人の居住を認め、通商の為に解放するなら、日本領土と認める事に異議は唱えない』との回答があった。

この様に幕末段階で既に、英国も米国も小笠原に対する日本の領有権を承認していた

６．明治新政府の小笠原領有に対する具体的行動

１８７３年（明治６年）：イギリス公使パークスから『日本の役人が小笠原から総引き揚げしたのは、島の領有権を放棄したものと考えている』との発言があったので、外務省は『小笠原島は日本の領土であり、近く役人の派遣をして取り締まる予定がある』と回答

１８７５年（明治８年）：小笠原島開拓に関する議案が提出され、太政大臣三条実美により決議された。その後直ちに田辺太一、小花作之助を乗せた明治丸が父島に向かい、父島に到着した田辺らは、再度島民に『日本国による統治』を告げ、島民たちもそれを喜んで了承した。

１８７６年（明治９年）：３月調査結果を受け、小笠原島を内務省の管轄とし、初代小笠原出張所長は小花作之助が任命された。１０月外務省はイギリス、アメリカ、フランス、ロシア、ドイツ、オランダ、デンマーク、ベルギー、オーストリア、イタリア、スペイン、ペルーの十二か国に『小笠原島の日本による統治』を通告した。当初イギリスとアメリカから島に於ける治外法権を認めるよう要請があったが、それはキッパリと断った。

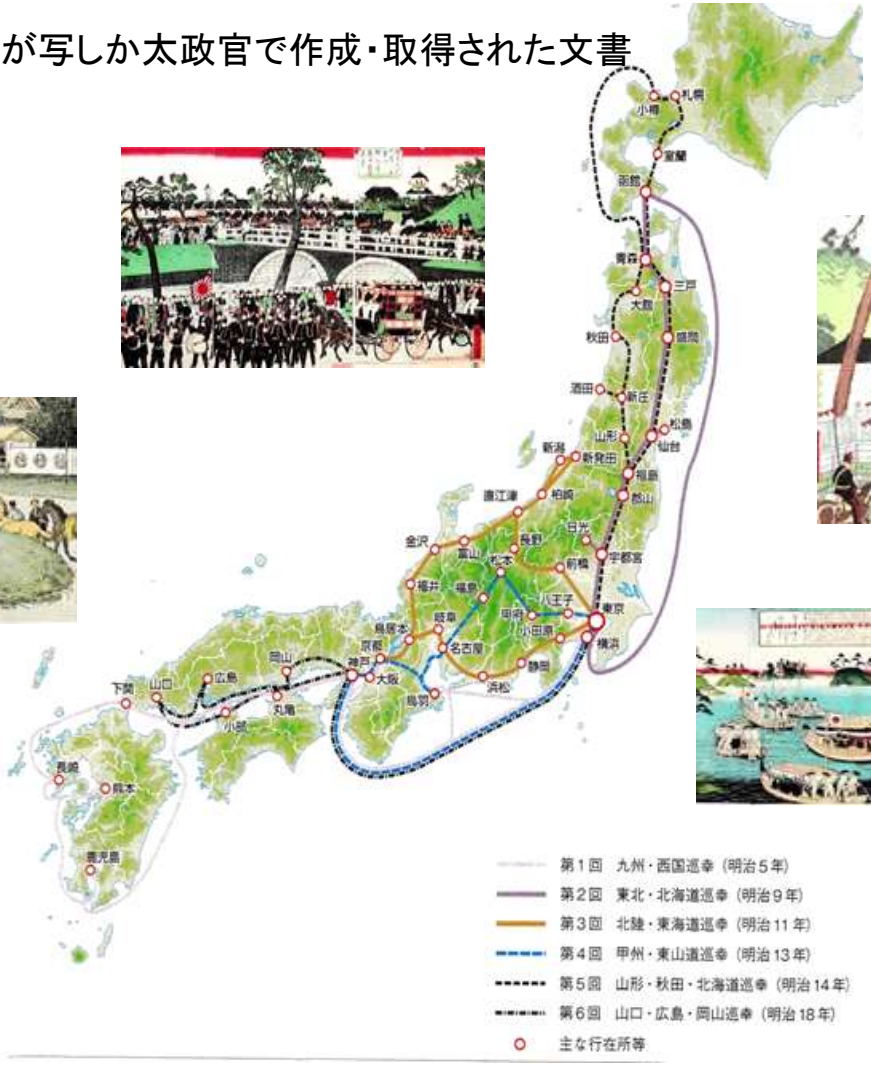
こうして徳川幕府の尽力と国際政治の力の鬩ぎ合いの背景もあって小笠原諸島は日本の領土として確定された。

明治天皇の東北巡幸

海の日の由来

御生涯の大半を御所で過ごされた江戸時代の天皇とは対照的に、明治天皇は各地へ行幸されました。六大巡幸（ろくだいじゆんこう）とは、明治5年（1872）の九州・西国、同**9年の東北・北海道**、同11年の北陸・東海道、同13年の甲州・東山道、同14年の山形・秋田・北海道、同18年の山口・広島・岡山、合計6回の巡幸のことです。
このうち、明治14年までの5回は太政官が主管して行われ、明治18年の1回のみ宮内省が担当しました。そのため、六大巡幸に係る公文書は、初回から5回までは主として国立公文書館に、最後の1回は宮内公文書館に原書が伝わっています。
宮内公文書館が所蔵する5回目までの文書は、多くが写しか太政官で作成・取得された文書を引き継いだものです。

朕は船旅が苦手



明治神宮ホームページより http://www.meijijingu.or.jp/index.html

平成7年「国民の祝日に関する法律」（祝日法）が改正され、平成8年から7月20日の「海の日」は「海の恩恵に感謝し、海洋国家の繁栄を祝う」趣旨により祝日となりました。

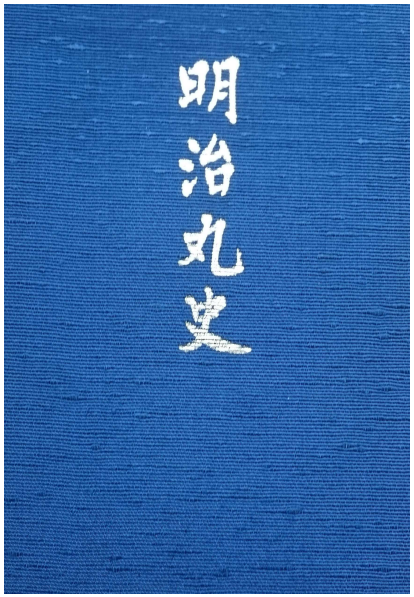
ところでなぜ、この日が選ばれたのでしょうか？

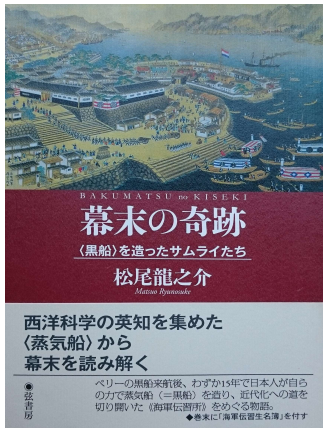
明治9年（1876）6月2日、明治天皇さまは東北・北海道御巡幸※1にお出かけになられました。埼玉・茨城・栃木・福島・宮城・岩手・青森の各県を御巡幸されたのち、7月16日青森から御召艦※2に御乗船され、函館を経由して**20日横浜へ御帰着**されたのでした。『明治天皇紀』によれば、**3日間荒波のため動揺はなはだしく、遅れて夜の8時すぎに入港したそうですが、明治天皇さまは終始“端然”としておられ、港で待ち受けていた人々を安心させたそうです。**

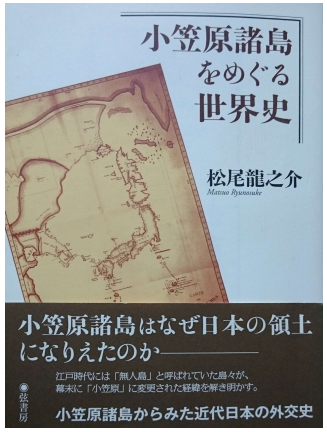
これを記念して昭和16年に「海の記念日」が制定され、平成8年から「海の日」として祝日となったわけです。

またこの時に御乗船された御召艦は、灯台巡視船**「明治丸」**です。明治6年に英国グラスゴーのネピア造船所に発注して、伊藤博文が「明治丸」と名付けました。8年2月横浜に回航され、その後灯台巡視船として活躍し、明治天皇さまの御巡幸に際しては東北・北海道御巡幸を初めとして数次にわたって御召艦となりました。

使用した参考図書







https://ja.wikipedia.org/wiki/ウィキペディア日本語版